

Title	大坂舎密局史
Author(s)	芝, 哲夫
Citation	大阪大学史紀要. 1981, 1, p. 33-47
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/6252
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大坂舎密局史

まえがき

することができない存在である。 お初年に設立され、その創立に当たっては適塾との人脈もうかがえる。 治初年に設立され、その創立に当たっては適塾との人脈もうかがえる。 大坂舎密局は大阪大学の前身と目される大坂医学校と連繫して、明

大きいと考えねばならない。に向かわせる動機となり、

わが国自然科学の近代化に果たした役割は

香密局は明治二年五月、大阪城の西、追手筋 (大手通)に面した京橋口御定番屋敷跡 (現在の大阪府庁本館の南西向い側)に開校された理化学専門の高等教育機関であった。教頭としてオランダ人ハラタマ Koenraad Wolter Gratama が迎えられ、化学、物理学を主とする講義が行なわれた。舎密はフランス語由来の化学を意味するオランダ語 Chemie の音た。舎密はフランス語由来の化学を意味するオランダ語 Chemie の音な。第三高等学校同窓会の建てた「舎密局址」の碑に「冀使過者不忘る。第三高等学校同窓会の建てた「舎密局址」の碑に「冀使過者不忘した」と呼ばれ、したがって舎密局とは理化学校の意味である。第三高等学校同窓会の建てた「舎密局址」の碑に「冀使過者不忘れ、他為関西近代学術濫觴之処」とあるように、舎密局は維新直後に関此、治療、第三高等学校同窓会の建てた「舎密局」とあるように、舎密局は維新直後に関ロにおいて最も早く開かれた西欧自然科学の本格的教育をめざした学のにおいて最も早く開かれた西欧自然科学の本格的教育をめざした学

て導入された西洋の新しい理化学思想は多くの青年達を後にこの分野与えた影響は直接的ではなかったけれども、舎密局とハラタマを通じ校であった。開校期間が短かかったために、明治の科学教育・研究に校のであった。 開校期間が短かかったために、明治の科学教育・研究に

二設立の背景

学伝習にその源を発すると見てよい。た状況と、明治維新の動乱とが深くかかわっていて、長崎における医た状況と、明治維新の動乱とが深くかかわっていて、長崎における医舎密局が大阪に開校されるに至った背景には幕末のわが国のおかれ

長崎においては文政六年(一八二三)に来日したシーボルト

P. F. v.

促し、安政二年(一八五五)には江戸に洋学所が設立され、翌年これがられていた。嘉永六年(一八五三)のペリーの浦賀来航は幕府の自覚を代々の来日オランダ医達によって、医学および自然科学の伝習が続けての来日オランダ医達によって、医学および自然科学の伝習が続け

学教育が始まる。 養生所を開設し、ここにはじめて近代的な学校の形態をとった西洋医 Meedervoort が長崎に来朝し、幕府医官の松本良順と謀って、精得館、 な変政四年(一八五七)に、オランダからボンペ J. L. C. Pompe van で、清学研究の気運が漸く高まりつつあった。この

得館内に分析究理所が設立されることになった。 J. K. van den Broek もポンペ自身も医学教育のかたわら理化学の講義 業を開始した。 化学専門教師としてオランダより招聘されたのが、ハラタマであった。 このボードインが医学校とは別に理化学専門の教育機関を併設すべき できた平石義男氏所蔵「舎密学伝習見聞録」によって明らかとなった。 において化学教育を行なっていたことが、先年長崎で見つけることが を行なった。 ハラタマはこの年四月長崎に到着し、 ことを幕府に建議したことが発端となって、 究理は物理の意味である。 理化学教育に関しては、 またポンペの後任者ボードイン A. F. Bauduin も養生所 この分析究理所にわが国には最初の理 ポンペの前 直ちに分析究理所で理化学の授 慶応二年(一八六六)に精 任者ファンデンブルク この場合分析とは化

かりの学生の宿舎、新築の第三棟が分析究理所に当てられていた。こかりの学生の宿舎、新築の第三棟が分析究理所に当てられていた。と、当時の養生所は現在の長崎市佐古小学校校庭付近にあり、三棟よと、当時の養生所は現在の長崎市佐古小学校校庭付近にあり、三棟よと、当時の養生所は現在の長崎市佐古小学校校庭付近にあり、三棟よいて発見したハラタマの書輸に

学生の一人がその講義を日本語に通訳した。 四十歳までの年齢層で、 に廊下が通り、 外観はなかなか立派で、長崎湾の眺望もよかったという。 の分析究理所の建物は長方形平屋で、 後述する三崎嘯輔でなかったかと推測する。 オランダ語を解せず、中に読解力のある者はあっても会話は困難であ た。 ハラタマは毎日午後三時半より五時十五分まで講義を行なった。 両側に四室づつ配置されていた。 常時十五、 六人を数えたが、そのほとんどは 周囲にベランダがめぐらされ この通訳を行なったのは 学生は二十五歳から 内部は 中央 た

機関を設置し、 徒数は四、 その教授に当たらせていたが、 八六一)には 蕃書調所内に精錬所のちに 化学局と改名された 化学教育 出たであろう。 八日間であったが、おそらくこの時に既にハラタマの江戸招聘の話が この年九月、 五名を出ず、その設備もまことに貧弱なものであった。 川本幸民、 ハラタマは始めて江戸に出た。 幕府は理化学教育の必要性を痛感して、 桂川甫策、 蕃書調所が開成所となった後もその生 宇都宮三郎、 その江戸滞在 柳河春三らをして 文久元年 には短 カュ

このような状況で、オランダから長崎へ来ている理化学専門教師のこのような状況で、オランダから長崎へ来ている理化学専門教師のこのような状況で、オランダから長崎へ来ている理化学専門教師のこのような状況で、オランダから長崎へ来ている理化学専門教師のととり上げたのが真の経緯であるといわれている。

窓会蔵)には次のように述べられている。

と命降り云々」と。
て天下之書生負笈の便甚悪し。故に東京に於て此二学を興隆すべし埋化試験等の教授)を盛にせんとす。乍然原と長崎は西偶の僻境にし埋化試験等の教授)を盛にせんとす。乍然原と長崎は西偶の僻境にし

き状況にあった。

の事例となった。 た幕府の計画は理化学の領域に限らず異例の措置で、最初にして最後 た幕府の計画は理化学の領域に限らず異例の措置で、最初にして最後 心地の江戸に外人教師を定住させて、洋学研究の推進をはかろうとし それにしてもまだ鎖国のたてまえが続いている慶応二年に、幕府の中

十月頃にはほぼ落成し、 事実から、 たと思われる。 自身が崩壊したのであるから、 五月には上野で彰義隊の乱が始まる。このようにして、招聘した幕府 は鳥羽伏見の戦、 輔を伴い、二月二日横浜着、 ようとしていた。 でないが、 の期間、 七)一月二十四日であった。 幕府はハラタマを迎えて、 ハラタマが 江戸定住のために 長崎を出帆したのは 慶応三年 江戸においてハラタマがどのような活躍をしていたかは定か 科学教育の本格的な活動には入っていなかったと思われる。 後に述べる実験器具の梱包を江戸では開かなかったという しかしその年十月の大政奉還に続いて、 四月には新政府軍が江戸に攻め上り、 翌慶応四年(一八六八)早春には開講式を挙げ 翌三日江戸に入った。その後の一年以上 ハラタマは戸塚文海、 開成所内に「壮大の学校」の造立を始め、 江戸ではハラタマは為すすべがなか 佐藤尚中、 騒然たる中に 四年一月に 三崎嘯 (二八六

ハラタマ自身は幕府というより日本政府に雇用されたという意識を

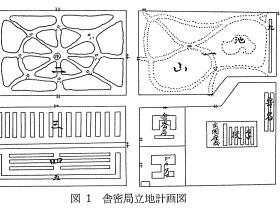
だけであったから、当然ハラタマとの契約は明治新政府が引き継ぐべら七年が通例であって、この時ハラタマはまだ来朝後二年を経過した持っていたであろうし、当時のオランダ医達の日本滞在期間は五年か

三構想と建築

を立ちのいて一時上海で待機していた。
と対医で後に大坂医学校に勤めるボードインも維新の難を避けて長崎遇の問題の速やかな処理を迫られた。この頃、ハラタマと同僚のオラ以上述べたように、新政府は維新の政変によって生じた外人教師処

でした。 で為す」から、江戸開成所内の理化学校を大阪に移して再建をはかる で為す」から、江戸開成所内の理化学校を大阪に移して再建をはかる で為す」から、江戸開成所内の理化学校を大阪に移して再建をはかる で為す」から、江戸開成所内の理化学校を大阪に移して再建をはかる で為す」から、江戸開成所内の理化学校を大阪に移して再建をはかる であず」から、江戸開成所内の理化学校を大阪に移して再建をはかる であず」が、

した人々が、直接、間接に緒方洪庵の流れを汲み大阪に関係が深い者他の理由は舎密局と併立される医学校と合わせて、この計画を推進



建設地と定めた。 空地となっていた前述の幕府の用地、 男を伴って大阪に到着した。直ちに小松、後藤とともに用地を物色し、 御用係田中芳男が書き残した舎密局の立地計画図を 京橋口御定番屋敷跡と舎密局の

図1に示す。図1は原図をトレースしたものである。

覧会に出品掛として渡欧した時に発していると思われる。 は当時にしては実に雄大で、しかもフランス式造園形式の影響を受け 太郎 (松本良順の息、 に欧州留学中の緒方惟準(緒方洪庵の息、 この計画図の位置の同定については後に詳しく触れるが、 これは立案者の田中芳男が慶応二年(一八六六)のパリ万国博 舎密局大助教となる)も相会し、祖国における総合大 大坂医学校校長となる)、 この博覧会 この構想 松本銈

が多かったということである。 むしろ原動力にこのことにあ はたがいに姻戚関係で結ばれていた。

り、ボ の帰朝組の企図が新政府の為 大して、日本最初の総合大学 政者達を動かしたのではなか を創立しようとした欧州から 分析究理所の構想を一挙に拡 大阪によんで、長崎の精得館 ードインとハラタマを

観場などの造営は夢に終った。

ろうか。

戸を発ち、 が出た後、 ハラタマは舎密局建設計画 三崎嘯輔、 いくばくもなく江 田中芳

> 学建設を誓い合ったというのが緒方銈次郎氏の推測である。 この三名

る。 校の建物は実現したが、田中の構想した舎密局周辺の回遊式庭園、 地が予定され、あわせて広大な総合大学用地としようとしたと思われ この舎密局の位置から南数百メートルの鈴木町に同時に医学校の敷 しかしながらその計画図の中、舎密局本館とハラタマ住宅、 医学 展

月四日に起工し、十一月十八日に上棟式を終わって、翌年一月に完成 の予定であった。十月大坂府より次のような布告が発せられた。 舎密局本館の建築工事は用地選定後直ちに、明治元年(一八六八)十

蘭医学、 此度追手前に於て新大学校御取建に相成、 稽古相始り可申候間、日限之儀者、 有之候はゝ大坂府に可申出候。 数学、 法学等学術御開ニ相成候ニ付、 尤当時御普請ニ付、 追而御布告相成可申候 舎密術を初め英学、 諸藩ニ而稽古望之者 来三四月頃より 仏学、

さらにこの御布告案の末尾には次の一 一、大学校の外、病院も近々御取立に相成候間、医術修業致度候者 項も見える。

大坂府

日限之儀は是亦追而御布告相成候事

も追々可申出候。

辰十月

た建築工事も諸職人が次第に減って、工事中止の憂目を見るに至った。 沙汰もなく、 府からの財政援助を得られず、さりとて大坂府管轄にするとの明瞭な て着々体制を固めつつあった過程で、大坂舎密局は当てにしていた政 しかしこれより前、大阪遷都の夢は消え、 関係者も大いに困惑する事態となった。 明治新政府が東京にお 上棟式が終わっ

免ぜられるということになり、 うやく翌年二月二十五日に至って、 政府に再三申し立てを行なったがらちがあかず、 左衛門の両御用係が上京して直接岩倉具視らに訴えた。その結果、 マもその違約を大いに責めた。最後に止むを得ず、 もともと後藤府知事の発議で出発した事情があるから、 絶体絶命の窮地に立ち至って、 頼みの後藤も知事を 田中芳男、 後藤を通じて 平田助 ハラタ ょ

が下った。それによって工事再開、 「改而、 舎密局諸事、 教頭其外諸職員総て坂府 (大坂府) 管轄の命」 三月末に諸工事が完了した。

た。 助教三崎嘯輔、 とのえてハラタマを饗応し、 三月四日、 新装成ったハラタマの居宅に、 御用掛田中芳男、同平田助左衛門が集まり、酒肴をと たがいにその辛苦を慰めて成功を祝し 大坂府権判事西園寺雪江

返済すべしという厳しい事情であった。 月迄毎月二百両ときめられ、 れは十ヵ月分合計二千両の内金で、四月より五ヵ月間に毎月百両づつ しかし、 舎密局の財政は決して潤沢なものではなく、三月から十二 準備金として五百両が三月に出たが、こ

る 崎および大阪滞在中に撮影し、 建物および幻のハラタマ住宅の写真は今回はじめて見つかったのであ まれていた。これまで舎密局の錦絵は知られていたが、 マン Vogtman 氏所蔵の写真三十葉を発見した。 この中に舎密局(口絵写真)およびハラタマ住宅(口絵写真)の写真が含 筆者は昭和五十五年九月、オランダにおいてハラタマの子孫ホフト 因みにホフトマ ン氏の写真にはこのほか大坂医学校の功労者エル オランダに持ち帰った写真であった。 これはハラタマが長 舎密局当時

> の民族博物館 Rijksmuseum voor Volkenkunde に寄贈された。 末から明治初年にかけての興味ある日本の風景写真が多数含まれて たライデン大学フォス教授夫人の斡旋で直ちにそのすべてをライデン た。 メレンス C. J. Ermerins の和服姿、 ホフトマン氏は私にこれらの写真を提示された後、 長崎出島、 大阪天神橋、 同席されてい 松島等幕

四 建 物 の 位 置

「史蹟舎密局跡」の二基の石碑が馬場町交叉点を谷町に下る本町通 前述した 三高同窓会の「舎密局址」ならびに 大阪府教育委員会の 大樟の樹の下に建てられている。 しかしこの場所が適当でないこ

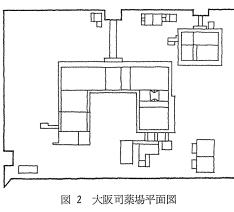
側



写真 1 大阪司薬場旧庁舎

という考証が続いた。 る。最近に至り、 とは既に昭和十四年に緒方銈 大手通南側であるべきである 次郎氏が指摘された通りであ その位置

が見える)と過去の舎密局本館 櫓 の建物 軸となって現存の大阪城千貫 行った方法を紹介する。 この中で筆者が位置考証 (写真の右後方にわずかに屋根 枚の古い写真(写真1)が (写真の左側に屋根の それ



ることができたのである。これは衛生試験所沿革誌に掲載れは衛生試験所沿革誌に掲載れは衛生試験所沿革誌に掲載されている「大阪司薬場旧庁されている「大阪司薬場旧庁る「司薬場平面図」(図2、原る「司薬場平面図」(図2、原ののので筆者がトレースした)を三ので筆者がトレースした)を三高資料中に見つけることができた。この中央のコの字型のきた。この中央のコの字型のきた。この中央のコの字型の

大手通へなるべく早い機会に移されることを関係各位に切望する。大手通へなるべく早い機会に移されることを関係各位に切望する。大手通へなるべく早い機会に移されることを関係を協い、旧庁舎」の写真は「平面図」の右下にしたがって、舎密局の位置を示す記念碑二基は現在の本町通からない。したがって、舎密局の位置を示す記念碑二基は現在の本町通からい。したがって、舎密局の位置を示す記念碑二基は現在の本町通からはならない。とを確証することができた。詳しくは拙稿を参照されたばならないことを確証することができた。詳しくは拙稿を参照されたばならないことを選係各位に切望する。

五開講式

前述のように明治二年三月には舎密局の新築工事は完了したが、

開

て止まず、遂に大隈は自説を諦めるという経緯があった。たのであろう。ハラタマは理化教育における実技実験の重要性を説い早々の新政府に実験を伴う理化教育は財政負担にたえないことを恐れず、算学や測量学の講義に止めるべきであるという議を立てた。出発校を控えて大蔵大輔大隈重信は当分の間、舎密局には器械等を装置せ

部が写っている)とを結びつけ

通り磁器、 開封されなかった。その梱包四百余箱が大阪で始めて開かれた。 状況はハラタマ述『舎密局開講之説』 それらの修理、 薬品ラベルは多数剝落していた。 と共に長崎から江戸、大阪へと回送されて、その間三年の間に一 く描写されている。 ネット 然たり。 頭と対す。 「知府事以下の諸大臣及び和蘭ピストリュス 領事官の名 明治二年五月一日を期して舎密局の開講式が行なわれた。 既に慶応三年にオランダに注文されていた器械、 助手の諸員次列し、 子に倚り黌中を監督す。 り会す。 其講話を訳して以て衆人に伝ふ。 その数百人、教頭乃ち開局の説を持し、 教頭盛服して講堂に上り、 ガラス類の破損が多く、 字漏生イョルソン 各国領事亦皆南に向て第一層弟子席に就く。 同定に毎日早朝より夜に及び二カ月を要したという。 午前十時、 第三層より十三層に至るまで衆人群集して講 本府当路の諸大臣位次を以て西に向ひ、 法蘭西レック ハラタマの開講の辞が始まった。 ハラタマは三崎嘯輔の助けを借りて 銅鉄器はさび、木具は腐敗して、 東に向て立つ。 (明治二年、 御用係又教頭の後に陪し、 連帯エ 大坂舎密局刊) 朗声講説す。 薬品類はハラタマ 助教西に向て侍 ヲゲー 第 米利堅 その日 一層筆記 に詳 衆皆粛 等皆来 予想 度も 口 教 椅 ピ

a Robert convice recomplitation of lover periconnect see the Doubelland a Distriction of the Kother of Vicements for heads Le l'ata ratione de Melandan

f. De l'antonno, nei comme de Melandan

f. De l'antonne parie opinitativan

L. Uternomy a jakie guintativan

L. Rimon Jakie 1850jo

C. Hinala Sakierayena Similijata gogo lakan

L. D. Gintame

m Thomas James Similinatin ganakakan

n. Misaka Shasike Similinatin ganakakan

n. Misaka Shasike Similinatin ganakakan

- a ボベンチ (アメリカ合衆国副領事)
- エバース (北ドイツ副領事)
- 土肥真一郎 (大阪府外交官) c
- d 西本清介(大阪府権弁事)
- 緒方惟準 (大坂医学校校長)
- f ピステリュース (オランダ副領事)
- ボードイン (大坂医学校教頭) g
- h 宇都宮靱負(外交官)
- i 西園寺雪江 (大阪府権判事)
- k 平田助左衛門(舎密局御用係)
- 1 ハラタマ(舎密局教頭)
- 田中芳男(舎密局御用係)
- 三崎嘯輔 (舎密局助教)

写真 2 舎密局開校式当日の記念写真

料理で祝賀の宴が開 ラ 夕 かれ、 職員、 生徒も酒食を賜わった。

開 校記念写

開校式当日に撮影されたものである。
真は現在私の知るところでは四枚存在する。 舎密局開校を記念して明治二年五月に 撮影されたと思わ この中の 一葉 (写真2)

解してくれるようになることが自分の渇望するところであると結んだ。

にこの理化二学が普及して、

特に最近の物理学、

して、万物学(博物学)と理化二学(物理学と化学) が生まれたことを説き を悟り、ともに競争して盛になった点にある。その西洋の新しい学と

化学の趨勢を多くの例を挙げて説明した。日本中

僻境にあってもこの学問の根拠をよく理

古人を崇信し過ぎずに、

後世の人も勉励すれば古人を超越し得ること

西方の学が東方の学と異なる点は

東西文明の歴史より説き起し、

その

演は三崎嘯輔によって訳され聴衆に伝えられた。

ハラ

タ 7 は

0) 演が終わって、 その日の午後、 外国領事を交えて、

この写真の現物は現在オランダのヘームステドに在住のハラタマのこの写真の現物は現在オランダのヘームステドに在住のハラタマのこの写真の現物は現在オランダのヘームステドに在住のハラタマのこの写真の現物は現在オランダのヘームステドに在住のハラタマの

K. V. D. ハラタマ氏所蔵のものであったことが後でわかった。

K. V. D. ハラタマ氏所蔵のものであったことが後でわかった。

井通夫)と判定した。

とこの日、宴に列した外国人領事名の中に a のボベンチとb のエバーのも間違いない。十三名の人物の同定については最近まで論議が続いらも間違いない。十三名の人物の同定については最近まで論議が続いたらくハラタマの自筆と思われる)によった。ただし「神陵小史」によるそらくハラタマの自筆と思われる)によった。ただし「神陵小史」によるそらくハラタマの自筆と思われる)によった。ただし「神陵小史」によるそらくハラタマの自筆と思われる)によった。ただし「神陵小史」によるとこの日、宴に列した外国人領事名の中に a のボベンチとb のエバーとこの日、宴に列した外国人領事名の中に a のボベンチとb のエバー

日本人については、、「以外の人物名は他の多くの資料からも裏付らう。

スの名がないので疑問としておく。

寺雪江と比定されている。筆者は「土井通夫伝」中の写真と人物でがDoi Sinichiro, Gai Kokwan とあるが、緒方銈次郎氏も上田穣氏も西園問題はでとこの人物であるが、でについてはハラタマ家の付箋には

家付箋の Gai Kokwan と一致することから、人物cを土肥真一郎(土月まで大坂府外国事務局御用係を勤めていたことがわかり、ハラタマ酷似すること、および同書によって土肥真一郎が明治二年一月から九

写真3は田中芳男の子孫の田中家に所蔵されていたものであるが、 原物は大正十二年の震災で消失し幸いに田中家に複写が残っていた。 原物は大正十二年の震災で消失し幸いに田中家に複写が残っていた。 原物は大正十二年の震災で消失し幸いに田中家に複写が残っていた。 原物は大正十二年の震災で消失し幸いに田中家に複写が残っていた。 原物は大正十二年の震災で消失し幸いに田中家に複写が残っていた。 原物は大正十二年の震災で消失し幸いに田中家に複写が残っていた。

ネクタイという松本の洋行帰りの姿は珍らしいがよく似合っている。式当日の写真2には写っていなかったはずである。写真3の羽織に蝶浜にいたが、舎密局開校後、助教として就任のために来阪した。開講馬である。松本銈太郎は維新前から留学中のオランダから帰国して横この写真の人物中特に注目したいのはgの松本銈太郎とりの深瀬仲

七 授 業 لح 著 作

舎密局の当初 の授業内容と職員雇用計画 は 左の

通りであった。

理科学体並職員 兼地質金石学試験伝習格致学化学実用講述

ハ教 ラ頭

タ

格致学化学講授訳述

化学地質金石学試験指示宣訳

松本大助

教

三崎大助教

度量学教授 動植二学教頭

復講訓導兼舎長 右二学教導

兼築造学教授一科諸学翻訳校正

同補助兼上木掛

独仏 乙 哉哉

田 中 芳 洋人 男

何 某

何 某

保 \mathbb{H} 東 潜

代には就任しなかった。 していたが、 このうち度量学教授には金子健次郎、 動植物学を講じるフランス人またはドイツ人は舎密局時 職員の月給は教頭ハラタマは洋銀六百枚で破 教場庶務 教場庶務には佐藤道碩を予定 何 某

開催の ては

緒方洪庵と適塾展」

に来会された深瀬うた代様の情報によっ

人物b

の深瀬仲馬については最近まで不明の人物であったが、

昨年

時の教育を担当した。

この松本銈太郎と三崎嘯輔の両助教がハラタマを助けて舎密局発足当

見つかった。

明

ここでも直接的ではないが、適塾と舎密局を結ぶ一本の糸が

もこの深瀬仲馬が緒方洪庵の六女十重の夫であることが判

りした。これにからずも

募集を行なったが、 も五十両であった。 格の高給であったが、 大坂府は舎密局建築工事の途中から前掲のような布告文を出し生徒 開講当日の生徒は阪優吉、 三崎、 松本両大助教および田中御用係はいず 緒方十郎は洪庵の五男である。し 生徒は阪優吉、中村才次郎、緒方十

- 田中芳男 (舎密局御用係)
- 深瀬仲馬 (大坂府判事試補) b 三崎嘯輔(舎密局助教)
- c d 木場伝内(大坂府判事)
- ハラタマ (舎密局教頭) e
- f 西四辻公業 (大坂府知事小将)
- 松本銈太郎 (舎密局助教)
- g 西本清介 (大坂府弁事五位) h
- i 平田助左衛門(舎密局御用係)
- 西園寺雪江 (大坂府権判事) j

舎密局開校記念写真 (明治25年5月23日撮影)

41 大坂舎密局史

郎 か

桂慶次郎のわずか四名であった。

治三年当時の授業時間割は左の通りで時間に拘束されないきわめての月からは生徒の有志の者にその伝習稽古(学生実験)が開始された。明咄がこれを通訳して、大坂府調役保田東潜がその講述を筆記した。嘯輔がこれを通訳して、大坂府調役保田東潜がその講述を筆記した。中はより授業を開始した。教頭のハラタマが理化総論を講述し、三崎上のリステスはこの四名の生徒に対し、開校式後一週間の五月八日午前

一、朝七時ヨリ十二時マデ

どかなものであった。

但

八時ョリ九時マデ 化学講義

十一時ョリ十二時マデ 理学講義

暇はなかった。

電はなかった。

金密局ではハラタマのために日曜休日制がとられていた。一般の学校で日曜を休日とする習慣は明治六年一月一日の太陽暦採用後であるをおせて年間十八日間の休日が定められていたが現在のような長期休曜日以外に正月三カ日は勿論、五節句、お盆、八朔など日本の習慣に曜日以外に正月三カ日は勿論、五節句、お盆、八朔など日本の習慣になかった。

旨府知事に申し出でた。とすれば、一年を経ずに舎密局の助教を勤められるように指導したいてくれるよう願い、また語学や算学を修業する生徒から選抜して助手実験器具を装置する労などは全く変らないから大いに生徒募集を行っ

その通り生徒中より抜擢の得業生を加えて明治三年三月には次のよ

発されたのであろう。

高峰は明治六年には東京大学工学部の前身であ

うな教師陣が整備された。

当校拝命之人員

大助教 三崎 嘯 輔

大学出仕 田中芳男 松本銈太郎

大得業生 保田東潛

大写字生 白 井 唯 一

准中得業生 阪 優 吉

岸本一郎

准少得業生 飯 沼 春 蔵

村

橋

次

郎

に当たられ、明治十七年には初代大阪衛生試験所長を勤めた。 ついて知られている。村橋次郎は本学基礎工学部村橋俊一教授の曽祖父記の母方の姓岸本を名乗った。日本における印肉製造技術の開拓者と記の中岸本一郎は緒方洪庵の妻八重の弟億川信哉の長男で、祖父百

うことになった。この舎密局の聴講によって理化学に対する興味が触で大坂医学校に入学したが、翌年三月英会話伝習のために舎密局に通でラーゼの発見で有名な高峰譲吉がいた。高峰譲吉は明治二年十六歳にヨーゼの発見で有名な高峰譲吉がいた。高峰譲吉は明治二年十六歳にラーゼの発見で有名な高峰譲吉がいた。高峰譲吉は明治二年十六歳このようにして、開校後一年間には生徒数も漸次増加し、教育体制にのようにして、開校後一年間には生徒数も漸次増加し、教育体制

者としての道を進むことになった。 る工部学校に入学、 明治十三年に官費留学生として英国に渡り、 化学

学校からの理化学聴講生の総数は五十九名を数えている。が理学校を経て理学所と改名された明治四年の一月から五月の間の医 医学校から舎密局への聴講の傾向はその後も続き、 たとえば舎密局

化新説』は四冊よりなり、 は総論、 『理化新説』および『金銀精分』の二著として世に残された。 舎密局におけるハラタマの講義は前述の『舎密局開講之説』 四はそれぞれ理学校および理学所より明治三年に刊行されている 二は理学(物理学)で、三、四で化学が説かれている その一、二は舎密局より明治二年に、 の その ほ 理 か

崎 に出版されている。 はこのような理化学書の他に、 説』も『金銀精分』もその訳者は三崎嘯輔と推測されるが、ハラタマ のである。この書は明治五年、 『金銀精分』はハラタマが舎密局での教授の余暇に、 地に開局間近の大坂造幣局のために貨幣の金銀分析法を説いたも 大坂開成学校の刊行である。 『英吉利会話篇』を著わし、 近くの天満川 明治四年 『理化新

さらに明治五年には化学実験器具の図解の書 した。三崎は翌年これを表にまとめた『薬品雑物試験表』を著わした。 痛感して、 体験から、 - かに実験に重点を置いたものであったかを知ることができる。 ハラタマの講義および実習を助けた三崎嘯輔は、 これらの著作によって、 明治三年にドイツのフレセニイュス著『試薬用法』を訳出 それに習熟するためには試薬の用法を知る必要があると 舎密局におけるハラタマの化学教育が 『化学器械図説』を出版 自からの化学実験 ハラ

> 祥地であるギーセンにおけるリービッヒの教育を模して、大阪を日本 マは実験化学教育の日本への移植をめざして、 センとしようと志していたのであろう。 欧州におけるその

0)

ギ

八 器 具 کے 試 薬

器具、 という記録があるが、 箱の梱包の中身については、 ラ 薬品をとりよせていた。 タマ は舎密局の理化学実験教育のために、 現在その目録は伝わっていない その時、 開講前に大阪で開かれた前述の四百余 器具、 薬品類の目録を作製した オランダから多くの

るまい。 间 に作製されたと判定される。 あるから、 校は明治六年四月より明治七年二月までの舎密局の後身学校の名称で かもしれぬ。いずれにしても明治六年末の調査であることは間違いあ 月と解すれば明治六年十月となる。 前者の明治第六十二月を明治改元の明治元年九月より第六十二番目 「旧理学所器械目録並諸貸附器械目録 一と判断される。 しかし三高資料中に「明治第六十二月調 後者の資料には開明学校の便箋が使用されているが、 両資料の目録はほぼ同じ頃すなわち明治六年から七年の間 両目録の分類法は異なるが、 あるいは単に明治六年十二 校務局」なる二資料がある。 化学用器械目録」 内容的には 一月の意 開明学 および

育と見て廃止し、 来の理化学教育の伝統を正則中学校設立の趣旨から、 この頃、 明治政府は学制の整備を急ぎ、 理化学教育とともに器具、 後に述べるように舎密局 薬品類の東京開成所へ これを変則生教

分は舎密局発足当時のものであったと推測される。

る程度行なわれたであろうが、財政状態および記録上から、その大部れる。明治二年の舎密局開校以来、それらの器具、薬品類の補充はあ移管を命じた。前述の二種の目録はそのための調査資料であると思わ

どである。 製坩堝約八百筒、 天秤は一〇種類二八基、 六五冊であって、その充実ぶりがうかがえる。さらに詳細に見ると、 百余瓶を数え、書籍については蘭書三七〇冊、 とは驚嘆に値する。 その内容は化学器具類五五七点、 明治初年に一学校にこれだけの実験器具が備わっていたこ 白金坩堝一五筒、蓄電池約六○点、 三口洗気瓶八五点、 物理機械類三七六点、 試験管一七八〇本、陶器 独書一四〇冊、 顕微鏡一○基な 薬品類千五 仏書一

鎮台病院、師範学校などに分散された。 具類の行方は全く不明である。開明学校留め置きの器具もさらに大坂呉類の行方は全く不明である。開明学校留め置きの器具もさらに大坂治六年十一月と七年三月に東京の開成所に送られた。現在これらの器具、薬品はそのごく一部を開明学校に残して大部分は明

九 分析鑑定と調査活動

頼を受けている。前者の宛先は理学校、後者は舎密局となっている。鑑定依頼、同年七月十五日には軍事病院より有馬温泉の成分分析の依ば、明治四年五月二十二日には京都府より葛野郡鳴滝村産出の煤炭の近畿各地よりもたらされた種々の物質の化学分析にも応じた。たとえ近畿各地よりもたらされた種々の物質の化学分析にも応じた。たとえ

た。

密局の名が通用していたことを示している。このことは官制上、理学校と変わった後の明治四年頃まで一般には舎

現しなかった。 現して、貧弱な舎密局の財政の補塡が考慮されたらしい。 さらには同じ目的で薬物の検査販売監督権を得ることも計画されたが、これは実 のは、大坂大蔵省より一円銀貨など各種の貨幣分析、医学校よ

「舎密局御用留」に記録されている。として兵庫県生野銀山の調査旅行に出発している。その往復の旅程はとして兵庫県生野銀山の調査旅行に出発している。その往復の旅程は関係し、造幣局御用を兼任していた。明治二年七月、その造幣局御用

一〇 変遷と推移

には東京の大学より舎密局を以後理学校と改めるべしとの達示があったは東京の大学より舎密局を以後理学校と改めるべしとの達示があった、単に舎密(化学)局と呼ぶのは偏固不適当であるから、化学、理学に、単に舎密(化学)局と呼ぶのは偏固不適当であるから、化学、理学に、単に舎密(化学)局と呼ぶのは偏固不適当であるから、化学、理学には東京の大学より舎密局を以後理学校と改めるべしとの達示があった。

川崎 東京では大学校制度も追々備ってきて、高度の教育を受けるべき学生 建言であった るから、 るであろうが、今は商売の土地で文運開化ははるかに東京に劣ってい 大阪は東京に対比される都会で、 困っている。このフルベッキを大阪のハラタマと交替させてはどうか。 名雇われているが、その中のフルベッキが東京の土地になじまないで も集ってきている。 するハラタマも気の毒で理化学の端緒を説くに止まっている。一方、)建言書によると、舎密局は折角開校されたけれども生徒の数も寥々 た総合大学構想とは異なる現実的な事情が伏在していた。 まだ日本全体に理化学の基礎教育制度が整っていないから、 旧営繕司庁跡に創設されていた。この洋学校開設にははじめに述 まず大阪の地に普通教育の洋学校を開設すべきであるという また東京の開成校には仏教師が二名、 将来は学術なども東西時立し並行す 英教師が三 何礼之助 教授

管轄も大坂府より大学所管と変わる。管轄も大坂府より大学所管と変わる。管轄も大坂府より大学所管と変わる。

この年十二月にハラタマは契約期間が満了し、オランダへ帰国する

儀なくされ、ハラタマはその変転を目のあたりに見て失意の中に日本ことになる。舎密局開校の日の理想はその一年半後に早くも後退を余

を去ったことであろう。

これより前、

明治二年九月には、

舎密局についで大坂洋学校が天満

師松本良順の長男で、欧州の地で有機化学専攻の道を歩んだ最初の日A. W. v. Hofmann 教授の研究室に入った。 松本銈太郎は 旧幕府奥医戦争勃発直後のプロシャのベルリンへ赴き、有機化学の大家ホフマン戦争勃発直後のプロシャのベルリンへ赴き、有機化学の大家ホフマン大助教松本銈太郎もハラタマ帰国と同時に舎密局を辞任し、再度欧大助教松本銈太郎もハラタマ帰国と同時に舎密局を辞任し、再度欧

水産会顧問などを歴任して貴族院議員に任ぜられた。

「財場農学校開設に尽力し、後大日本山林会会長、大日本農会顧問、同いの場ののの労者、御用係田中芳男も、理学校が開成所移管は、ときまった時に辞任し東京に去った。田中はその後博物学に精通して、ときまった時に辞任し東京に去った。享年二十九歳。

本人化学者であったが、ドイツ滞在七年後に下肢脱疽にかかり、

明治

之墓」が現存する。

「文昇院殿前正七位日下部尚之る。享年二十六歳。足羽山麓安養寺に「文昇院殿前正七位日下部尚之東校大助教となるが、明治六年五月十五日、郷里福井で結婚後急死す東校大助教となるが、明治六年五月十五日、郷里福井で結婚後急死す

えた。リッテルは尿素合成で有名なヴェーラー F. Wöhler の弟子であ教師として、金沢に滞在中のドイッ人リッテル H. Ritter を新たに迎管となり、普通高等教育の内容を充実させ、ハラタマの後任の理化学はすべて大阪を去って四散してしまう。大坂開成所はその後女部省所このようにして明治三年の末には、舎密局発足当時の主要メンバー

明治五年六月の記録では理学校における理化学教育はリッテル校とも

った。

村譲芝の六名の日本人教官が受持ち、理化学生として本科生一七名、の他に、市川盛三郎、岸本一郎、飯沼春蔵、村橋次郎、藁寄隆次、中

予習生一九名を数えている。

行された。後、改訂されて「理学日記」と「化学日記」の二本としての講義録は市川盛三郎訳「理化日記」全二三冊となって明治五年に刊この当時の理学校での講義はリッテルによって英語で行なわれ、そ

とともに第四大学区第一番中学校と改称された。さらにその年十月に明治五年七月にはまた新たな学制がきめられ、大坂開成所は理学校

再刊された。

正則中学之規則相立候ニ付、理学校並ニ変則生教授之儀可致廃止

は

病歿した。谷中天王寺の墓地に葬られた。しての人望が高かったが、明治七年十二月天然痘にかかり四十七歳で設された東京開成学校に移って鉱山学を教授した。リッテルは教師と設された東京開成学校に移って鉱山学を教授した。リッテルは教師ととの達書が来て、大阪における舎密局以来の理化学専門教育は遂にことの達書が来て、大阪における舎密局以来の理化学専門教育は遂にこ

十二年八月には遂に大阪の地を離れて京都に移転し、旧制第三高等学しい変遷を経て、明治十九年第三高等中学校となった。そして明治二中学校、大学分校など十八年間に十二回の校名の改称という目まぐるさらにその後、大坂外国語学校、大坂英語学校、大坂専門学校、大坂明治六年、大坂開成学校はまた開明学校と改称された。開明学校は

校となったのである。

一あとがき

を触れることができなかった。 く触れることができなかった。 く触れることができなかった。 な触れることができなかった。 な触れることができなかった。 な触れることができなかった。 な触れることができなかった。 な触れることができなかった。 ないと思われる。本篇においては紙 数の関係で、その舎密局の果たした貢献と、与えた波紋について詳し ないと思われる。本篇においては紙 ないと思われる。本篇においては紙 ないと思われる。本篇においては紙 ないと思われる。本篇においては紙

来六十三年の長い伏流の後にこの時はじめて実現した。
かわり合いを持っていたことである。総合大学建設の夢は舎密局以りであるが、最後に大阪大学の誕生とも不思議な絆で結ばれていたことを紹介して筆をおく。それは昭和六年、大阪帝国大学創立の時の初とを紹介して筆をおく。それは昭和六年、大阪帝国大学創立の時の初とを紹介して筆をおく。それは昭和六年、大阪帝国大学創立の時の初とを紹介して筆をおく。それは昭和六年、大阪帝国大学創立の時の初とを紹介していたことである。総合大学建設の夢は舎密局以書である。総合大学建設の夢は舎密局以書である。総合大学建設の夢は舎密局以書である。

Œ

- 2 「舎密局創立之起源并爾来之記録」三高資料
- の位置ならびに羸囿計画―」蘭学資料研究会報告、第二八二号、昭和四十3 菊池重郎「大阪城西諸施設に関する田中芳男文書について―特に舎密局

- 4 上田穣「大阪舎密局についての二、三の問題点」『日本洋学史の研究』 №、昭和五十三年。
- 三十四号、一二頁、昭和十四年五月。 緒方銈次郎「舎密局に就てのかずかず」『関西医事』、第十一卷上第四百
- 菊池重郎「蘭人教師ハラタマ住宅の追跡」『自然』、 一九七六年二月号。
- 7 菊池重郎「大阪舎密局の再発見」『自然』、一九七四年八月号。
- 8 芝哲夫「大阪舎密局の跡をもとめて」『自然』、一九七五年六月号。
- 9 年六月二十一日。 宗田一「国立衛生試験所百年史の刊行に寄せて」『薬事日報』、昭和五十
- 10 医事新誌』第三一四七号、昭和十四年 緒方銈次郎「東洋文化史上貴重資料たる可き写真について説く」『東京
- 第五二四九号、昭和五十年八月二日。 宗田一「大阪舎密局の開講―もら一枚の写真をめぐって―」『薬事日報』、
- 15 14 13 12 中野操『大坂蘭学史話』昭和五十四年。
 - 三高同窓会『神陵小史』昭和十年。
 - 半井桃水編『土井通夫伝』大正十三年。
- 三高同窓会『三高創立七十周年記念グラフ』昭和十四年
- 16 号、昭和五十六年。 芝哲夫「適塾門下生に関する情報収集および調査報告」『適塾』第十三
- 究会、『研究報告』第二七七号、昭和四十八年。 緒方富雄「短命であった大阪舎密局―三つの資料の紹介―」 蘭学資料研
- 18 大蔵省印刷局『岸本一郎氏の事績』昭和三十九年
- 国立衛生試験所『国立衛生試験所百年史』昭和五十年。
- 医学校「職務進退留」三高資料。
- 理学所「日誌」明治四辛未年、三高資料
- 22 21 20 19 学資料研究会、 緒方富雄「短命であった大阪舎密局補遺―4つの手写資料の追加―」 『研究報告』第二七八号、 昭和四十九年。 關

しば てつお 大阪大学理学部

三十周年を迎えた大阪大学萬葉旅行之会

小森真幸

旅行の歴史にも終止符が打たれると思っておられたようだが、 は延べ一万八千名に達していた。先生御自身は、退官と同時に、 昭和四十五年三月、犬養先生停年退官の時には、一一二回、参加人数 旅行を第一回と定め、以来、年五、六回のペースで脈々と続けられ、 を歩いていたのが発展したものである。その後、昭和二十六年四月の **授)の講義に魅せられた学生達が、先生と共に数十名で、萬葉の故地** 葉旅行之会は、時あたかも三十周年を迎え、参加人員は三万人を超え 続けられ、大阪大学が、五十周年を迎えた昭和五十六年、大阪大学萬 あったものの学生達の熱心な要望によって現在も以前と同じペースで 旅行は歩くことが主体であり、それが又、のめり込む魅力と表裏をな とより、北陸、山陰、九州、遠くは壱岐、対馬にまで及んでいる。 見ないのではないだろうか。また、訪れた萬葉故地は、近畿一円はも ようとしている。この継続期間といい、参加人員といい、他には例を れないものがある。 でなく、学部、年令を越えた学生間の友情と親睦のみのりもはかり知 している。旅行によって、萬葉への実地に即した理解を深めるばかり れを感じさせる。しかし、このように時代が変わっても、依然、 米二合必携ノコト」「費用、壱千円」などとあり、まさに時代の流 初期のワラ半紙数枚の泊まりがけの旅行のパンフレットを見ると、 大阪大学萬葉旅行之会は、 戦後程無く、犬養孝先生(当時大阪大学教 大阪大学萬葉旅行之会委員 、曲折は

でも続くことを心から祈っている。(一一〇頁、萬葉旅行の記録、 このようにユニークな萬葉旅行が、 犬養先生の御健康と共にいつま 参照)